

最北端の玄関口「稚内空港」

☆ 稚内空港は日本最北端に位置する国が設置・管理する第2種空港で、夏季には東京・大阪・名古屋・新千歳・丘珠の5路線7往復の路線が就航しています。

周辺には利尻・礼文・サロベツ国立公園があり、空港を中心として西にノシャップ（ノシャップとはアイヌ語のノッシュャム＝あごの突き出たという意味）岬、東に宗谷（宗谷とはアイヌ語のショウヤ＝岩礁の多い海岸という意味）岬など観光地に恵まれ、本年も多数の観光客が来稚し、



稚内空港



間宮林蔵像と宗谷岬

ボタクシー専用乗降所、横断歩道ルーフ、駐車場歩道ルーフ、身障者専用乗降所の整備を実施しバリアフリー化の推進を進めており、本年度においては身障者専用駐車場に防風板を設置し冬季における強風や吹雪による吹き溜りを防止し、さらなる利便性の向上を目的とした整備を実施する予定です。

稚内には歴史的な文化遺産である北防波堤ドームや毎年シベリヤから多くの白

繁忙期の空港駐車場は団体観光客が乗車する大型バスが航空機到着時に来場し混雑しています。

稚内空港は二つの半島に挟まれた宗谷湾の底に位置し海洋性気候を受ける環境にあり、特に冬季の海風は強く歩行さえ困難にさせる場合があるため空港利用者の利便性向上を目的として一昨年、昨年と旅客駐車場及び旅客ターミナルビル前において、身障者専用駐車場、観光バス及観光用ジャン



鳥が飛来する

身障者専用駐車場

大沼などがあり、最近では宗谷岬に近い宗谷丘陵で肥育した「宗谷黒牛」というブランド牛の販売も始まり離島観光と併せて新たな観光資源として期待されています。

これらの特色を生かし、観光リピーターの増加や冬季に減少する航空機利用客の取り込みに関係者が一丸となり取り組んでいきたい思います。



白鳥が飛来する大沼と利尻富士